

地元生産者と連携した農業体験活動

新篠津村立新篠津小学校

1 取組の概要

新篠津小学校においては、総合的な学習の時間など教育課程への位置付けを明確にした上で、栄養教諭等がコーディネーターとなり、食に関する体験活動を実施している。

特に、小豆や米の栽培などの体験活動は、地元生産者をはじめ、新篠津村役場、新篠津村教育委員会等の多くの関係機関と連携を図って実施している。

2 取組の実際

(1) 地元農業関係者と連携した小豆の栽培

ア 対象児童 第6学年児童

イ 協力者・連携機関等

- ・地元生産者（高齢者：ふれあい塾生）
- ・新篠津村教育委員会

ウ 地元生産者の関わり

- ・農業指導
- ・農作業支援

エ 内容

- ・小豆種まき（6月）
- ・小豆刈り（9月）
- ・小豆脱穀（10月）
- ・収穫祭（10月）

地元生産者が児童の活動に対し、種まきや刈り取りの指導を行った他、畑おこしや日常的な草取り等、畑の維持管理の支援をした。



【種まき】



【刈り取り】



【脱穀】



【収穫祭】

(2) 農業（稲作）体験交流

ア 対象児童 第5学年児童

イ 協力者・連携機関等

- ・地元生産者
- ・村総務課
- ・新篠津村教育委員会
- ・農業振興センター
- ・札幌市立西岡北小学校

ウ 地元生産者のかかわり

- ・農業指導
- ・ポット苗の提供

エ 内容

札幌市立西岡北小学校との交流

- ・みのり交流農園（新篠津村が設置した農園）において、田植えを実施（6月）
- ・みのり交流農園において、稲刈りを実施（9月）
- ・札幌市立西岡北小学校において、収穫米の贈呈（11月）



【田植え指導】

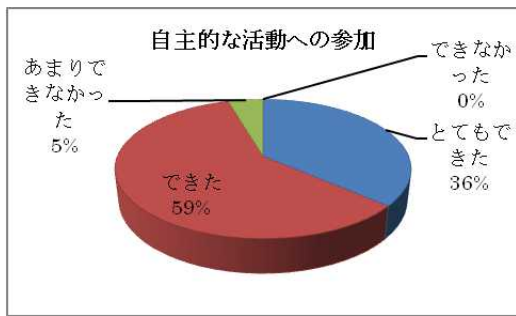


【田植え】

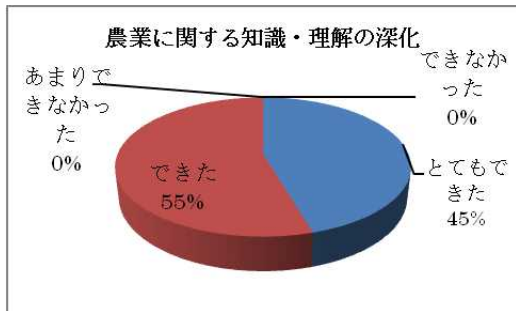
3 成果と課題

(1) 成果

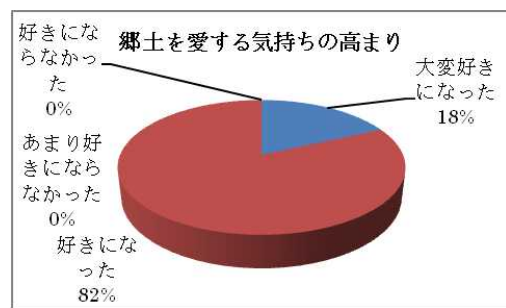
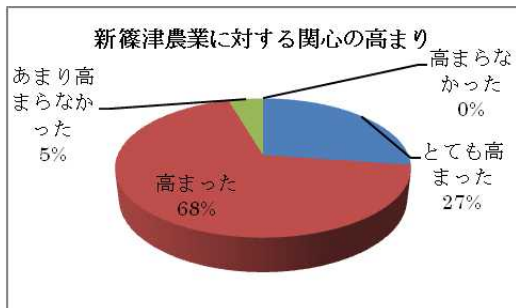
地元農業関係者の指導のもと、年間を通じて小豆栽培に取り組んだ結果、児童に次のような変容が見られた。



ア 自主的に参加した児童の割合が、「とてもできた」及び「できた」を合わせて95%となったことから、専門家による指導は、学習活動として非常に有効であった。



イ 農業に関する知識・理解（栽培の方法や作物の特徴等）の深化については、100%の児童が「とてもできた」及び「できた」と回答していることから、農業の専門的な知識を伝えることができる指導者の活用は有効であった。



ウ 地元農業に対する関心について、「とても高まった」及び「高まった」と95%の児童が回答するとともに、100%の児童が自分の住んでいる地域を以前に比べて好きになったと回答していることから、農業を基幹産業とする地域においては、児童の農業体験学習はふるさと学習の視点からも効果があった。

(2) 課題

「将来農業に関わる仕事につきたいと思ったか」という質問に対して、「思わなかった」及び「あまり思わなかった」と回答した児童が71%だったことから、キャリア教育の視点から見ると学習効果はやや薄かった。今後は、職業としての「農業」という観点を加え、学習展開を工夫する必要がある。

